

太郎と佐賀をつなぐ

草場昭司さんをしのんで

佐々木 三知夫

「あなた大変。佐賀から上品な宮司さんが音楽館にお見えになり太郎ちゃん募金箱に1万円札、だと思っけど寄付されていきました」平成29(2017)年10月のある日の午後4時ごろ。東海林太郎音楽館(秋田市大町)でボランティア説明員をしている家内からの電話だった。

宮司とは、佐賀の殿様鍋島公を祭る佐嘉神社(佐賀市)の草場昭司さんに違いない。「それは大変だ！ すべ戻る」。私は稲刈り作業をやめ、秋田県神社関係者大会が開かれている秋田市のホテルに駆けつけた。草場さんは来賓として参加するはずだ。大会の始まる直前、ロビーで本人にお会いして御礼を申し上げ、翌日に葉隠墓苑(秋田市新屋日吉町)へ案内する約束をした。葉隠墓苑は、戊辰戦争の際に秋田藩救援のため派遣され、戦死した佐賀藩士を弔う場である。鳥海



石の慰霊碑には佐賀藩士の心得4カ条「葉隠四誓願」と戦没藩士54人の名が刻まれている。鍋島家の家紋(杏葉紋)にちなんだ杏の木も植わっている。植樹当時の佐賀県知事井本勇さんと草場さんは親友で、月1度会っているという。翌朝、墓苑に詣でた草場さんに、一つだけあった杏の実を取って手渡し、井本さんに渡してくれるようにとお願ひした。後日、草場さ

ささき・みちお 1946年生まれ。戊辰の役戦没佐賀藩士慰霊秋田委員会会長、東海林太郎音楽館館長、企業組合農藝舎、農事組合法人新田水稻生産組合、NPO法人あゆみの会各代表。由利本荘市。

んは墓苑を守っている新屋葉隠会(渡邊克忠会長)に葉隠四誓願の掛け軸を贈っている。

今年11日、草場さんが89歳で亡くなった。訃報を知らせてくれたのは高千穂神社(宮崎県高千穂町)の後藤俊彦宮司。「草場さんのお通夜に参列してきました。私を引き立ててくれ、大変お世話になりました。いつものように、微笑をたたえた安らかな顔でした」

〇

一昨年12月、草場さんはアトリオン音楽ホール(秋田市中通)で催された東海林太郎音楽祭の鼎談「東海林太郎さんを語る」に参加。「東海林太郎さんは旧制武雄中学

東海林太郎の肖像画を前に思い出を語る草場昭司さん(2018年12月9日、秋田市のアトリオン) (撮影・初瀬武美)

野球部の恩人です」と太郎の肖像画を見せながら、ある逸話を紹介した。草場さんは旧武雄中のある。ちなみに、秋田に派遣された佐賀藩士の主力は武雄(佐賀県武雄市)からの援軍だった。

〇

草場さんの語りによると、戦後間もない昭和22年、太郎は武雄で4回も公演している。最初の公演会場は武雄中で、自分の隣に座って歌を聞いていた同級生の北川が太郎の肖像画を描いた。楽屋を訪ねてその絵を本人に見せたところ、太郎は優しい口調で「よく描けていますね」と言いつつ「昭和二十二年十月三十日、東海林太郎」とサインをしてくれたという。鼎談に持参した絵がそれだった。その絵を還暦祝いの同級会で展示したところ、武雄中の野球部で捕手だった大島が、武雄のような片田舎に東海林太郎が公演に来てくれたわけを明かしたという。草場さんは笑みをたたえ、「東海林先生は自分を呼んでくれた理由が野球部のグローブやバットを買う資金に足らなかったのだと聞いて、収益金を寄付してくれたというんですね。おかげさまで当時の武雄中学野球部は野球らしい野球ができたんです」と語った。

昨年8月、私たち東海林太郎顕彰会(小国輝也理事長)が中心となって「直立不動像建立委員会」(藤本光男会長)を立ち上げた。太郎の歌と人間性を、当人の代名詞だった直立不動姿勢の像によって後世に伝えるのが目的だ。草場さんには建立の呼び掛け人の一人になってもらった。さらに高額な寄付までいただいた。

昨年11月、入院中だった草場さんに電話を入れ、「ご厚情ありがとうございます。来年(2020年)秋までに立像を建てたいと思います。台座を低くして、両隣と一緒に立てるようにしたいと思います。除幕式にご招待しますので、太郎さんと一緒に写真を撮りましょう」と伝えた。草場さんは明るい声で「それは楽しみですね。ぜひ伺いたいですね」と、おそらくはいつもの微笑を浮かべながら答えてくれた。残念ながら直立不動像と並んでの写真はかなわなかったですね。あの世で太郎さんの好きな大福でお酒を酌み交わしてください。